

燕訓阿萬止利陶弘景曰紫胸輕小者是越燕有斑黑而大者是胡燕必大按越燕者尋常之燕子也胡燕者與本邦之雨燕同然陶氏所謂胡燕作窠長能容二足絹者令人家富也此與雨燕異雨燕者棲山上之巖穴而作窠耳

〔重修本草綱目啓蒙三十二〕石燕

原禽

炳ノ説ハ琉球カハホリ、形状カホリ翼ヨリ大ニシテ淡紫色、好テ樹枝ニ倒懸ス、前足ハ毛ナクシテ一ノ駒アリ、後足ハ毛アリテ五指アリ、時珍ノ説ハ百鳥圖ニ符ス、即酉陽雜俎ノ鸚鵡ニシテ、カザキリナリ、已ニ鶻雞ノ附録、鸚鵡ノ下ニ詳ニス、又石部ニ石燕アリ、石ノ形栗介ニ似タルモノニシテ、舶來和産俱ニアリ、此條ト同名ナリ、

増石燕ヤマツバメ、此レハ乳石ノアル岩穴ニアリ、形状伏翼ニ似タル鳥ナリ、富士ノ人穴、大峯蟻螂ノ岩屋、近江風穴、丹州大江山等、巖窟中ニ産ス、常ニ窟中ニ在テ飛行シ、外へ出デズ、

〔日光山志四〕岩燕。華嚴瀑の峻谷に巢すひ、常に谿間を回翔ス、常の燕より殊に大にして、尾二ツにさけず、尾先に針の如きものあり、

〔西遊記三〕一足鳥。

肥後の國八ツ代の求麻川をさかのぼる事八里にして、神かみの瀬せの岩戸といふ所あり、天下の奇所なり、中南向にて高さ廣さともに十四五間ばかりもや有らん、上よりは石鐘乳の甚大にして柱の如く、或は人の如くなるが、つらゝの下りたるやうに、口より奥に至るまで、透間なく下れり、其石鐘乳の間に鳥有りて飛ありく、背中黒く腹白く尾みじかく、全體燕に似たり、此鳥只一足なり、世界の中に、只此岩戸の中ばかりに生ずる鳥なりといふ、奥より口にいたるまで數百羽むらがり飛て、程近くまでも飛下る、されど甚すみやかにして、いかなる形としかと見定めがたし、

〔新撰字鏡鳥〕鶻竹刮反、山鳥、又阿万止利、